

放課後等デイサービス デフキッズ

安全管理基本方針

※この安全管理マニュアルは、令和7年3月より開始予定の児童発達支援事業も対応するものとする。なお、文中に「放課後等デイサービス デフキッズ」と記載されているものは、令和7年3月以降は「児童発達支援・放課後等デイサービス デフキッズ」と読み替えることとする。

令和7年2月作成

1. 基本方針

- **安全管理の理念:**
 - すべての子どもの安全を最優先とする。
 - 個々の子どもの特性に合わせた支援を提供する。
 - 職員の安全意識を高め、安全管理体制を確立する。
- **対象:**
 - 放課後等デイサービス デフキッズを利用するすべてのろう児・難聴児。
 - 職員、ボランティアなど、事業所に関わるすべての人。
- **関係機関との連携:**
 - 保護者、学校、医療機関、関係機関と連携し、情報共有を図る。

2. 安全管理体制

- **安全管理責任者:**
 - 安全管理に関する責任者を放課後等デイサービス デフキッズの管理者とする。
 - 責任者の役割（安全計画の策定、職員研修、事故発生時の対応など）を定める。
- **安全委員会:**
 - 安全委員会（朝昼礼の会議など）を設置し、定期的に会議を開催する。
 - 委員会の役割（安全対策の検討、リスクアセスメント、マニュアルの見直しなど）を定める。
- **職員研修:**
 - 安全管理に関する研修を定期的実施する。
 - 研修内容（感染症対策、災害対策、救急救命、情報共有など）を定める。

3. 環境安全

- **施設・設備の安全点検:**
 - 施設・設備の定期的な点検を実施し、危険箇所を特定・改善する。
 - ろう児・難聴児に配慮した環境（照明、表示など）を整備する。
- **送迎の安全:**
 - 送迎車両の点検、安全運転の徹底、乗降時の安全確認を行う。
 - 送迎ルート安全性を確認する。
- **活動場所の安全:**
 - 活動場所の安全点検、危険物の管理、活動内容に応じた安全対策を行う。
 - 活動場所での視覚による情報把握が行いやすいように、活動場所の事前情報等を職員がきちんと把握しておく。また活動場所について子どもたちへの情報共有に努める。

4. 健康管理

- **健康状態の把握:**
 - 保護者及び学校からの子どもの健康状態についての連絡があった時は職員間で之情報共有を徹底する。
 - 利用開始時に健康状態、既往歴、アレルギーなどを確認する。
 - 利用中の健康状態の変化に注意し、必要に応じて保護者や医療機関に連絡する。
- **感染症対策:**
 - 手洗い、うがい、換気、消毒などを徹底する。
 - 感染症発生時の対応手順を定める。
- **服薬管理:**
 - 服薬が必要な子どもについては、保護者と連携し、適切な管理を行う。

5. 災害対策

- **防災計画:**
 - 地震、火災、水害などの災害を想定した防災計画を策定する。
 - 避難経路、避難場所、非常用持ち出し品などを確認する。
- **避難訓練:**
 - 定期的に避難訓練を実施し、避難経路や避難方法を確認する。
 - ろう児・難聴児の場合、視覚的な情報伝達が重要となるため、避難経路の表示や誘導方法を工夫する。
- **緊急連絡体制:**
 - 緊急時の連絡体制（保護者、関係機関など）を整備する。

6. 事故発生時の対応

- **事故報告:**
 - 事故発生時の報告体制、報告様式を定める。
 - 事故内容、原因、対応などを記録する。
- **応急処置:**
 - 応急処置の方法、救急救命の方法を習得する。
 - 救急セットを常備する。
- **再発防止:**
 - 事故原因を分析し、再発防止策を検討・実施する。

7. 個人情報保護

- **個人情報管理:**
 - 個人情報保護に関する法令、ガイドラインを遵守する。

- 個人情報の取得、利用、提供、保管、廃棄などについて、適切な管理を行う。
- **情報共有:**
 - ろう児・難聴児に関する情報は、支援に必要な範囲で関係者間で共有する。
 - 情報共有の範囲、方法、責任者などを明確にする。

8. その他

- **マニュアルの見直し:**
 - 定期的にマニュアルを見直し、必要に応じて改訂する。
- **職員への周知:**
 - マニュアルの内容を職員に周知し、理解を深める。

ろう児・難聴児支援における留意点

- **視覚的な情報伝達:**
 - 視覚的な情報伝達（手話、文字、イラストなど）を積極的に活用する。
 - 掲示物や表示を工夫し、視覚的に分かりやすい環境を整備する。
- **コミュニケーション:**
 - 子どものコミュニケーション方法（手話、口話、筆談など）を尊重する。
 - 必要に応じて筆談やタブレット端末などのコミュニケーションツールを活用する。
 - 補聴器や人工内耳を使用している子どもには、適切な管理方法を提供する。
- **個別支援計画:**
 - 個々の子どもの特性やニーズに合わせた個別支援計画を作成する。
 - 個別支援計画には、安全管理に関する事項も盛り込む。
- **関係機関との連携**
 - 定期的に学校や医療機関との情報交換を行い、連携を密にする。